

# 古河文化見聞録

## 古河藩領 村絵図をあるく

### 江戸時代の古河藩領村ガイドマップ

古河歴史博物館では、12月19日(月)まで古河藩領とその村々を描く絵地図を公開中。古河の藩領村は、いくつもの国や郡にまたがって分布したため、郡奉行など古河藩役人は、あるいはそのような広範な領分に腐心を重ねていたのかもしれない。また、意外な場所や名だたる史跡・旧跡などが古河藩領の村には含まれておりなかなか見どころ満載です。

そこで、陳列中の藩領絵図や村絵図から、その領域にみられる特徴と描かれた村のすがたをかいま見ることにはたしましょう。

### 辺境にひろがる古河藩領村

江戸後期の古河藩領といえば土井家8万石。そもそも8万石とは文政5(1822)年、土井利厚が幕府老中の永年勤続によって1万石を加増された拝領高を示すもので、歴代の古河城主中、もっとも大きな藩領は土井利勝の16万2千石です。

土井家8万石の古河藩領は、「城付藩領」(156カ村・約6万5千石)なる古河城周辺村落と、「上方御副地」(85カ村・約3万5千石)と



◀国重要文化財「小野寺村絵図」

いう摂津・播磨・美作(大阪・兵庫・岡山)に点在した飛地により構成されていました。「城付藩領」の村々の国郡と数は、下総国(茨城県古河市)葛飾・猿島の2郡29カ村、下野国(栃木県)都賀・寒川・安藤・足利・梁田の5郡92カ村、武蔵国(埼玉県)埼玉・横見・入間・大里・高麗の5郡35カ村というように、藩庁所在地の下総国より他国に多くの村が広がり、国郡別の村数が均等ではないことがわかります。

### 「霞」 ユニークな古河藩の村落管理

この3カ国12郡156村の「城付藩領」を効率的に管理するため、古河藩では、領域をおおむね均等に分ける境界を設定、その範囲に収まる村々を「霞」という独自の区分で再編しました。すなわち、思川東部の台地に広がる村々を「岡郷」、思川から巴波川・永野川までのあいだに広がる低地を「中郷」、古河町南部および渡良瀬川西部の村々を「川部新郷」、巴波川・永野川の西から渡良瀬川までのあいだに所在する村々を「佐野郷谷中」というように。

「霞」ごとの村数は、岡郷29、中郷27、川部新郷22、佐野郷37、野州新御領分16、武州新御領分25のように再編成されます。バランスの取れた行政区割といってよいでしょう。ちなみに「新御領分」とは土井利厚が加増された1万石のこと。

### 小野寺 慈覚大師ゆかりの村

さてここで陳列中の村絵図。古河城から北西に7里(28km)という位置、なかなづく日本史を彩る偉人ゆかりの旧跡も現存する、下野